

「チヨイわるオヤジの巨樹フォーラムへの旅行記は、前号で戸塚精一会員にいただいています。気心の知れたお仲間との旅は楽しそうですね。フォーラム参加のほかの活動は？」

市川 近在の山登りや県内の巨樹めぐり、地域の巨樹の調査などを行っています。3年前に調査した矢筈山のサラサドウダンツツジは、おそらく数百年の樹齢だといわれる貴重な群落で、いちばん太かったツツジは、根回り162センチ、樹高約6.5メートルでした。成長の遅い落葉低木のツツジがこれほど大きくなるのは珍しいでしょう。

こんな風に私たちは、各地の巨樹古木を訪ねてその息吹に接し、仲間と酒を酌み交わして自然の恵みに感謝することを主な活動としています。それにしても、巨樹のパワーは健康にも良いようです。

私の父親も103歳まで長生きしましたし、事務局長の中澤さんは2度の大病を克服、他にも、持病を抱えながら毎年元気に全国フォーラムに参加している仲間は何人もいます。

——倉洲地区の人口はどれくらいでしょうか？
主な産業は林業ですか？

市川 人口は3000人ぐらいです。主な産業は江戸時代から続く林業でしたが、暮らしを支えてきた林業は衰退し、荒れた山林が目立つようになってきました。2014年の群馬・高崎大会に参加してくださった方は覚えているかもしれませんが、うちの地域には全国レベルの特別に大きな樹はあ

りません。しかし、森林と共に生き抜いてきた地域の人たちの歴史があります。何百年もの時間を重ねて私たちがここに存在すること、地域そのものが巨樹なのだ、という想いをフォーラム開催のメッセージとしました。

実は、最初は開催にあたって慎重論が強くて、うちの村には泊まるところもないし、威張れる巨樹なんてないぞ、と消極的な意見もありました。参加した人に「なんだ、こんなところ」と言われるんじゃないかと、迷いに迷ったんです。

でも待てよ……と。古来この山里で連綿と営まれてきた人々の生活の息吹は、巨樹古木が積み重



倉洲村でのフォーラムのスタッフ集合写真

ねた歳月と同じなんじゃないかと。私たちは、全国からお迎えする皆さんにこの土地の人情に触れてもらい、絆を深めてもらうことで、巨樹古木から受ける生命力と同じ思いを感じ取ってもらえると考え、あえて手作りの企画と運営を進めました。そして倉洲の皆がこのフォーラム開催を自分のことと思っただけの結果、大会は非常に盛り上がり、会員も増えて会も活性化しました。それに、地域の人が集まってくれたのは、中澤さんの人柄もありますね。

——すごく良いフォーラムだったと伝説になっています。市川さんご自身は、ずっと倉洲で過ごされてきたのですか？

市川 若いころは東京に出て、東京農大林学科から東京農工大大学院で造林学を専攻しました。父親は、私が絶対に林業から離れないという信頼感があったんでしょうね。卒業後、「嫁さんもらうまでは給料取りの勉強をしろ」と言われ、県立高校の教師になりました。家業は、1987年に父親から引き継ぎました。そして今、私の長男も林業を継いでいます。

ところで、林業という産業は一般の経済のモノサシでは測れません。苗木を1本植えて、それを収穫するまでに70年。資本を70年も寝かせて置くということは普通では考えられないでしょう。例えて言えば、いちばんリターンが早いのは、博打ですよ。壺を開けて勝てばすぐ金が入る。次は小売商でしょうね。明日の朝、店を開ければお金が入ってくる。サラリーマンはひと月、農業は1